

穏やかな三が日を迎え、ずっと続きますようにと祈っています。コロナが落ち着いたと思えば、インフルエンザが蔓延し、物価が高騰し先行きどうなるのかつかめない日々。貧困者が増え、この街に何が起きるかわからない不安でいっぱいです。

その中で私たちは過去を見直し、学ぶ事でどのように考え行動していけばよいのか。2025年1月1日の朝日新聞社説が示唆しているように思いますので、ごいっしょに学びたいと思います。



## 「不確実さ増す時代に」

胸騒ぎがする。波乱が起きる予感が。それが何かは分からない。いつにも増して先が見えない年が、明けた。不確実さの原因の最たるものは、米大統領に返り咲くトランプ氏だろう。

「中国に高率関税を」「パナマ運河を米国に返せ」「軍を動員して不法移民を国外追放する」。本気か。はったりか。あえて世界を不安に陥らせる戦略なのか。

日本もまた、不確実さが漂う。昨秋の総選挙で30年ぶり少数与党に。石破首相は年末の会見で「臨時国会は熟議の国会にふさわしいものになった」と自賛した。日本の政治は、自民党は、変わったのか。変化は定着するか。一時しのぎの仮面なのか。

野党もまた、今夏の参院選をにらんで通常国会では対決色を強めるに違いない。

先が見通せないこの年、私たちは何を支えに世界を読み解けば良いのか。昨年のノーベル経済学賞を受賞した米経済学者ダロン・アセモグル氏の論考を手掛かりに、考えてみたい。

### 繁栄への「狭い回廊」

自由で繁栄した国の実現には、権力機構である「国家」と、市民が成す「社会」が拮抗して成長することが必要だとアセモグル氏は説く。

放置すれば「国家」は市民を押しにかかる。「社会」の側が国家を監視し、足かせをはめる必要がある。しかも両者が均衡する「回廊」は、とても狭いという。

近年の世界の状況に当てはめてみる。

たとえば今のロシア。国家が極度に肥大し、社会は圧殺されている。戦争批判の自由すらない。今年ウクライナで戦火がやむことがあっても、ロシアの「社会」は簡単には立ち直れまい。

逆向きの動きは、昨夏、ハシナ政権が崩壊したバングラデシュで起きた。強権政権のもと、与党政治家とのコネなしでは就職先も見つけれない状況に学生らが怒り、デモが広がった。学生代表も加わった暫定政権が真の安定をもたらせるか、岐路にある。

アセモグル氏は5年前、日本の課題として「人々が社会の足元から変化を促そうとする動きが弱い」「約25年間も停滞を経験したのに、反発する運動が起こらなかったのは驚くべきことだ」と、本紙の取材に語っている。

## 国任せにできない

さかのぼれば日本では、朝鮮戦争が始まった1950年以来、右肩上がりの成長が基調となり、国家と社会が緊張する局面は限られた。

55年に自民党が誕生して以降、政治の暴走を危惧する市民が国会を包囲することはあった。とはいえ、なべていえば投票日を除けば政治にさほど深く関与しない姿勢が一般化したといってい

いだろう。ところが90年以降、日本は停滞の時代に入る。経済成長が滞り、高齢化が進み、自然災害が頻発する。30年前の阪神大震災を機に、国家任せでは立ち行かない、社会の力を育てねば。そんな意識転換が日本でも進んできた。「政官まかせにはいけない」と、警鐘を鳴らした米国の詩人がいる。19世紀を生きたホイットマンは詩や政治論考を通じ、民衆に政治参加を求めた。英国から独立して王政と決別したのに、米国政治は「職業的政治屋」らに牛耳られていると嘆いた。普通の労働者や農民が議員や公務員に選ばれ、職場から議会や役所へ通う政治を実現できるのは、世界で米国だけだと訴えた。強調したのは政治を「凝視」する大切さだった。

《堅実な民衆ならもっと強く政治に介入せよ》《常に投票し、常に事情に精通せよ》平易な言葉を連ね、記事や冊子で「民衆こそ民主主義の主役たれ」と説き続けた。

## 不信の根を見極める

ホイットマンにならって凝視したいものが二つある。

まずはトランプ氏を選んだ米国の民意に正面から向き合いたい。1期目の政治混乱に接してなお人々がトランプ氏に投票した背景には、現在の統治のありようへの抑えがたい不信があるはずだ。米国が単独で世界の秩序を守れた時代は去り、繁栄を支えた中間層は衰退した。選挙は政権選択の手段から、不満や怒りといった感情表出の場と化した。だからこそ選挙の結果以上に、不信・不満の根源を見極める必要がある。それは決して日本人にも他人事とは言えないだろう。

もう一つ凝視すべきは、日本の政治である。一見して不安定に見える少数与党が、日本を変える好機ともなりうる。

昨秋まで続いた自民「1強」時代は、あまりに多くがブラックボックスで決められた。安全保障やエネルギーなどの基幹政策ですら、有権者の目が十分に及ばぬところで変えられた。今年是与野党間の政策形成の過程がより可視化されるように、潮目を変えたい。有権者の側が変調や逸脱から目をそらさない。しっかりと声を上げる。強靱な日本の社会を築く。そんな年にしたい。